

H19 号豎穴住居から出土した^{かたかなぐ}鍔帯金具について

○奈良時代の^{かたかなぐ こしかわおび}鍔帯金具(腰革帯の飾り金具)が多量に出土

財団法人かながわ考古学財団が発掘調査を実施している伊勢原市No.160 遺跡において、このたび奈良時代の鍔帯金具（腰革帯の銅製飾り金具）が豎穴住居から 10 点まとめて出土しました。

県内では、これまで 170 点出土していますが、大半が単独での出土であり、最も多い場合でも 4 点でした。

近畿地方の出土例などと比較して、これらは一連のものである可能性が高く、県内で鍔帯金具の組み合わせが判明した貴重な発見となります。

○豎穴住居の壁際からまとめて発見

鍔帯金具はH19号豎穴住居の、北側の壁際に近い12cm×6cm程の範囲から発見されました。住居の床面もしくはそのすぐ上部から出土したことから、住居の廃絶後すぐにまとめて置かれたものと考えられます。

鍔帯金具は、役人が着用した革帯に取り付けられていたもので、方形の巡方(じゅんぼう)が4点、半円形の丸柄(まるとも)が6点あります。大きさはいずれも幅3.5cm程度で、保存状態は良好です。



出土状況

